

新中同窓会報

発行
新穂中学校
同窓会事務局
印刷
新穂印刷

人生とは

打率ではなく打数だ



同窓会会長

池野 俊 昭（潟上）
（昭和45年度卒）

新年おめでとうございま
す。会員の皆様は、日頃より母校の活動に温かい励ましやご支援をいただき感謝申し上げます。

調のときを待つて打席に立つことにしよう」と見送っていたら、きつとチャンスは巡ってはいきません。打席に立つという事はいろいろな悩み、プレッシャーがかかるかもしれない。辛いことや哀しいことも打席が多いほど増える。でもそれを恐れてはいけません。きつと経験も増えチャンスは巡ってきます。とお話ししました。

また、新穂中学校同窓生としてチャレンジ精神で何もかも挑戦していただきたいと思ひます。

同窓会入会式では、令和5年度卒業生に対し「人生とは打率ではなく打数だ」と講話させて頂きました。

これからの人生で空振りしてもいいから、恥をかいでもいいから打席に立とう。打率を上げようと考えないから「いま調子が悪いから今回は打席に立つのをやめよう」とか「もつと絶好

健康と今後益々のご活躍を祈念いたします。



母校近況報告

新穂中学校校長 岩崎 浩史

令和5年度になると新型コロナウイルスの流行も落ち着き、教育活動もこれまで通りに行うことができた。同窓会総会も3年ぶりに実施することができ、大変嬉しく思いました。

さて、コロナ禍が終息した学校の課題は、猛暑下での熱中症防止対策や教職員の働き方改革の推進でした。これらの課題を解決できるように、これまでの教育活動を地域との連携推進の視点で見直しや改善を図りました。

例年体育祭は、9月上旬に行っていました。熱中症の対策として令和5年度より9月下旬に実施することになりました。最も暑い夏休み中に学校で準備活動を行う必要がなくなり、当日までの日程も余裕ができました。外での練習や体育祭当日も特別な暑さ対策を行うことなく安全に実施することができました。

地域と連携した活動の一つは、総合学習として取り組んだSDGs学習です。実生活や地域の課題をSDGsの視点で捉え、実際に地域を調査し、解決策をアクションプランとして考えました。そして令和5年度に、全校で保護者や地域に発表する会を「SDGsフェス」として実施しました。

令和6年度は、地域の方々

新穂中学校の今

昨年度からの新穂中の主なあゆみを紹介します。

令和5年度

- 生徒数78名（男子51名、女子27名）
- 山王神社祭礼見学
- 第四北越銀行旗新潟県少年野球大会 兼 全日本少年軟式野球大会新潟県予選 優勝
- 全日本少年軟式野球大会北信越ブロック 出場
- 新潟県中学校総合体育大会軟式野球競技会 3位
- 東日本少年軟式野球大会 出場
- 通信陸上競技大会新潟県大会 出場
- 新潟県中学校陸上競技大会 出場
- 新潟県駅伝競走大会 出場
- 中学生税の作文 関東信越国税局管内納税貯蓄組合連合会会長賞、佐渡市教育長賞
- 青少年読書感想文新潟県コンクール【課題図書】最優秀賞
- 博報堂教育財団博報賞奨励賞
- 新潟SDGsアワード優秀賞
- あいさつ祭り実施（6月、10月）
- 2年生課題解決型職場体験実施
- 伝統芸能・課題解決型職場体験学習発表会、新穂中SDGsフェス開催
- 立志元服式
- 講師 佐渡ゴールデンアイビス 鈴木 道也様
- 演舞披露 合気道と光道場佐渡支部様
- 第75回卒業証書授与式・同窓会入会式（男子16名、女子9名）

令和6年度

- 生徒数79名（男子46名、女子33名）
- 天王祭（記念例大祭）見学
- 県通信陸上大会 出場
- 県陸上競技大会 出場
- 県総体軟式野球大会 出場
- 新潟県駅伝競走大会 出場
- あいさつ祭り実施（6月、10月）
- 2年生課題解決型職場体験実施
- 地区合同防災学習実施
- 総合学習発表会、新穂中SDGsフェス開催

詩を書くことと選ぶこと

寺田美由記(瓜生屋)

40年近く詩を書いてきた。初めての20年位は独りで書いていた。詩は独りで書くものなので、おかしな表現であるが、詩人会や同人誌に所属せず、単独で書いていたと言った意味である。15年位書いてみて、書きたいことも見えてきたので当時、詩壇と関わっていた「詩学」という雑誌に投稿を始めた。「詩学」は投稿者の中で、実力を認められた者は年に一度、選者から詩

青が散る

藍原 彰(長畝)

芥川賞作家の宮本輝の初期の小説に「青が散る」という作品がある。TBSのテレビドラマでも放映された。創立されたばかりの大学に入り自らテニサークルを立ち上げて、テニスコート造りから発展するところの青春小説だ。時代の背景があるのかもしれないが、今の学生を描いた小説と比べて物悲しさが漂う。この小説に限らず宮本輝の初期の作品には、どれも物悲しさが付いて回っている気がする。芥川賞を受けた「蟹川泥の河」もその最たる作品だ。宮本輝は大阪の大手門学院大学出身、大手門大学主催で、宮本輝を記念した「青」をテーマにした短文コンクールがある。私も「青のなごみ」という題で原稿用紙3枚程度の短文を送ったことがある。新穂中学校時代のバスケットボール部の事と、卒業後に建設された学校プールにまつわる話である。3年生の時の担任はK先生だった。プールは出来上がったが無断で使用出来な。同級生の何人かが無断で来た。ある朝の朝礼で担任のK先生は、いきなり「君の名前を呼ぶ前」に話しかけ、君がふて腐れて何も答えないので、「そんな事も分らないのか」と大声をあげていきなり「君の頬を」を打った。一瞬の事でその場の教室は凍り付いたかのようだった。君は立ち止まったまま動けなかった。

人クラブ」と次々に声がかかり推薦を受け入会することになった。そのような訳で、有名詩人と交流もできるようになったのである。6年前と昨年の2回、「日本詩人クラブ新人賞」の選考委員を経験した。この定義は「新しい発見」なので、私の中で佳詩の条件は①ほかの誰にも書くことのできない表現、②内容であること、③大勢の人の心に響くものであること、④あくまで謙虚に尊敬を持って対象に向き合っていること、の3つである。

故郷に帰ってきても気づいたこと

渡辺 治洋(濁土)

就職して佐渡島を離れ、三十年以上の歳月を経て、数年前から島での生活を再開している。在校当時は本造だった校舎も建て替えられ、生徒が着る体操着も奇抜だったオレシシ色からシックな色味に変更されているなど、時の移ろいを視覚で感じている。故郷の風景も、萌木の季節に咲き乱れる山桜の華やかさは、旅に出ていた者しか気付けない佐渡島の良い変化の一つではないかと思ひながら眺めています。

変わらないもの

市橋 伸(北方)

新穂中学校を卒業して、もう40年近くが経とうとしています。時代と共に、いろいろなものが変わっていった。しかし、私にとつての「新穂中」と言えは「は変わっていません。現在、私は下越地区の中学校で教員をしていて、数年前に佐渡から母校の下越地区に組み込まれてから、母校の活躍を目の前で見る機会が増え、ますます、私の中で変わっていき、新穂中は「陸上大会のオレシシのユニフォーム」です。(私たちの時は、タイダイで言ってました)大会の役員として、競技場に行き、新穂中オレシシを見る、勤務校の子達よりも気になって気になってしょうが

パズル

1人1人が大事なピース

石川 煌大

令和6年度の生徒会スローガンは「パズル1人1人が大事なピース」です。このスローガンには、「パズル」という形のピースがあり、全て揃わないと完成しない。新穂中学校にも様々な生徒がいて、全員いなくともよい学校にはならない。より良い新穂中学校を目指しお互いの認め合つて生活し、この学校が1つの大きなパズルに変わります。という意味が込められています。また、「交流」「視点」「切替」の生徒会基本方針を意識して日々の生活に取り組みしています。今回は、僕たちが取り組んできた活動の中で、今年から大きく生まれ変わった新穂中文化祭を紹介したいと思っています。

恩師の言葉

和衷の響き

市橋 良夫

「どうしても出せない、出せない、強い弱音が心を支配し、それ以降の練習にも力が入らない。あきらめにも似たような挫折感はあるもの。対する構えを瞬時に打ち砕くかのようであった。「音がはつきりしない。もつとしっかりと出せ。」いつものように指導者が大きく唸り声を発した。昭和44年、私は新穂村立新穂中学校の吹奏楽部に籍を置いていた。吹奏楽部に入つたのは、リズムカルに演奏する先輩の姿を見て、一種の憧れがその主因になったことと思う。前奏で出す「一番高い「レ」の音にいきなりつまずき、楽器(トラ

令和六年度同窓会役員

- 顧問 岩崎 浩史(新穂中学校校長)
- 会長 池野 俊昭(濁土)
- 副会長 菊池 哲明(濁土)
- 内海 香織(北方)
- 庶務 市橋 和男(北方)
- 会計 炭屋 佐世(青木)
- 幹事 引野 太(下新穂)
- 金子美和子(濁土)

同窓会からのお知らせ

同窓会総会を、今年度は1月24日(金)に新穂中学校を会場に開催します。久しぶりに母校を訪れ、懐かしい仲間との再会を楽しんでいただければ幸いです。ぜひご参加ください。

●寄贈について

毎年、同窓会から母校を巣立つ卒業生に卒業証書ホルダーを寄贈しております。



お問い合わせは:

〒952-0106
佐渡市新穂瓜生屋719
新穂中学校内
新穂中学校同窓会事務局
電話 0259-22-2406
FAX 0259-22-3388
e-mail info@ssdwd.jp
HP http://info:ssdwd.jp